

# 広島市植物公園の野鳥

大丸秀士（広島市安佐動物公園）

## はじめに

従来、植物園、動物園、水族館、昆虫館などは生物の種類毎の展示に特化して、専門的な展示がされてきた。従ってその内容は生物の分類や形態、分布といった項目の展示や解説が中心であった。しかし、近年では個々の生物の生態や行動、環境との関わりが研究が重視されるようになってきた。そこで各施設においても従来の枠組みを核にしながらか領域を広げて環境を解説したり、専門としない分野の生物との関わりを展示したりする試みも求められている。このような背景の中で、展示されている植物と野鳥や昆虫など動物との関わりを解説する基礎資料が求められている。

## 目的

この調査では植物公園内に生息している野鳥の種類と生息時期を明らかにすることを目的とする。また公園内に作られたさまざまな植物環境について、野鳥の生息や利用について特徴があるかどうかについても調査する。

## 方法

ラインセンサス法で出現した鳥を記録していった。コースは林、池、草地などを含む2.0km（図1）とし、おもに午前中に2～3時間、最低でも1時間をかけて観察した。用いた器具は倍率8倍の双眼鏡、写真記録はデジタルカメラを使用した。調査は1名または2名で実施した。

本格的な調査は基本的に月3回、旬ごとに1回とし2002年11月下旬から1年間とした。予備的な調査として2002年5月から11月までの11回の調査を実施しており、このデータも記録に加えた。またタカの渡り調査や写真撮影時に出現した野鳥の記録も加えた。この結果調査日数は50日となった。

## 調査地の概要

植物公園は広島湾の西方に位置する（北緯34度東経132度）。五日市平野がその北方の山へ続くゆるやかな山麓にあり、小高い丘の様相を呈している。展望台から瀬戸内海が望めるように、わずか3.5kmで沿岸に達する。標高80mから148m、総面積は18.3haで、公園の東側は宅地化が進み住宅団地となっている。西側は緩やかな斜面に水田が広がる。南東側は道路を挟みアカマツ林の小山があり、やはり密集した宅地につながる。

## 気候・植生

温暖な瀬戸内海気候に育まれたアカマツ林を主とする植生であるが、駐車場近辺など一部を除くと展示区域に

はアカマツ林は小面積が残されているだけである。展示のためさまざまな樹種が植栽されている。たとえばウメ、サクラ、カシ、スギ、針葉樹などである。これらの林はいずれも疎林で、低木が伐採されている。

## 結果

### 1. 鳥相

観察期間の2002年5月から2003年11月までに観察された鳥種は55種であった（表1）。広島県の里山のほぼ平均的な鳥相といえるが、都市化の影響もあり大型のキツキツ類やカッコウ類に乏しい。反面小さな池がありカモ類が訪れたり、秋のワシタカのコースにありサシバやハチクマなどが観察できる特徴もある。

一回の観察で観察される種数について単純に平均したものが表2である。調査日の天候などの要因もあるが季節的な傾向としては、冬鳥がいなくなる春先にやや種数が減る。また8月から9月にかけても観察種数が少ない。これは子育てを終えて囀りなどの活動が低下し発見が困難になったり、この時期には観察時間よりもっと早朝に活動し調査時には活動が低調になっていることなどが考えられる。

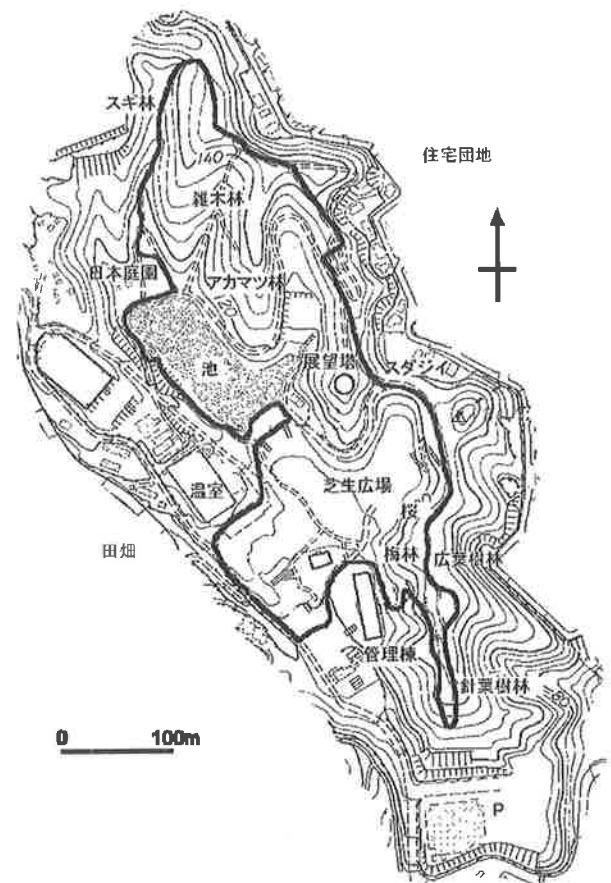


図1. 調査地と調査経路図

表1. 観察した鳥種

目	科	種名	月												備考																						
			1		2		3		4		5		6			7		8		9		10		11		12											
			上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下											
カイツブリ目 コウノトリ目	カイツブリ科 サギ科	カイツブリ																																			
		コウノトリ																																			
ガモ目	カモ科	アオサギ																																			
		マカモ																																			
タカ目	タカ科	コガモ																																			
		小淵カモSP.																																			
		ハチクマ																																			
		トビ																																			
		オオタカ																																			
		ハイタカ																																			
		ノスリ																																			
		サシバ																																			
		オオワゴン																																			
		オオワゴンSP.																																			
チドリ目 ハト目	シギ科 ハト科	チドリ																																			
		ハト																																			
カッコウ目 キツツキ目	カッコウ科 キツツキ科	カッコウ																																			
		キツツキ																																			
スズメ目	ツバメ科	ツバメ																																			
		コシアカツバメ																																			
		イワツバメ																																			
		ツバメSP.																																			
		キセキレイ																																			
		セグロセキレイ																																			
		ビンズイ																																			
		ヒヨドリ																																			
		モズ																																			
		イワビバリ科 ヒタキ科	イワビバリ科 ヒタキ科	イワビバリ																																	
ヒタキ																																					
		ルリビタキ																																			
		ジョウビタキ																																			
		シロハチ																																			
		ツグミ																																			
		ヤブサメ																																			
		ウグイス																																			
		キクイタダキ																																			
		キビタキ																																			
		コサメビタキ																																			
		エソビタキ																																			
エナガ科 シジュウカラ科	エナガ科 シジュウカラ科	エナガ																																			
		シジュウカラ																																			
メジロ科 ホオジロ科	メジロ科 ホオジロ科	メジロ																																			
		ホオジロ																																			
アトリ科 アトリ科	アトリ科 アトリ科	カシラダカ																																			
		アトリ																																			
アトリ科 アトリ科	アトリ科 アトリ科	アトリ																																			
		マヒワ																																			
ハタオリドリ科 ムクドリ科 カラス科	ハタオリドリ科 ムクドリ科 カラス科	ハタオリドリ																																			
		ムクドリ																																			
カラス科 カラス科	カラス科 カラス科	カラス																																			
		ハシブトガラス																																			
種数			14	19	23	24	15	17	18	18	17	19	22	20	15	14	20	21	13	15	21	16	19	8	8	18	11	15	19	23	26	27	21	22	20	21	18

表 2. 観察種数 (旬毎、単純平均)

月別	1			2			3			4			5			6			7			8			9			10			11			12		
種数	14	19	19	24	15	17	19	19	17	17	20	20	15	14	17	21	13	15	15	16	13	8	8	12	11	11	14	12	16	14	21	21	22	20	21	18

## 2. 繁殖

観察された55種の鳥類の中で、繁殖について巣卵など確実な証拠を観察したものは4種だけであった。巣立ち後間もないと思われるカワラヒワやイカルの幼鳥への給餌、キジバト、ハシボソガラスの造巣行動を確認した。

繁殖の可能性を示唆する繁殖期の囀りとしてキジバト、コゲラ (ギーピッピ声)、ヤブサメ、ウグイス、キビタキ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワが観察された。また、明確な囀りをもたないヒヨドリ、モズ、ハシボソガラスは繁殖期に数多く観察されることから繁殖の可能性がある。

## 3. 環境と鳥種

多くの植物を展示している植物園では、樹種などの環境によって観察される鳥種が異なることが予想されたが、結果は一般的な野鳥の習性を追認するものであった (表 3)。

表 3. 環境と鳥種

環境	鳥 種
水辺	セキレイ類
池	サギ類、カモ類
林床	ミヤマホオジロ、シロハラ
茂み	ウグイス、ヤブサメ、アオジ
樹木	キツツキ類、エナガ、カラ類、カラス類 ヒタキ類、クイタダキ (特に針葉樹) ウソ (特にサクラ、ウメ)、 メジロ (ウメ、ビワなどの花)
草地	ツグミ、ムクドリ

## 4. 詳 説

### カイツブリ科：

カイツブリが冬季と繁殖期に観察された。冬季には池にカモ類が飛来し水位の低下に伴い姿を消すが、カイツブリは比較的長く滞在する。2003年の5月から7月まで断続的にカイツブリが観察された。植物園職員は2羽確認しており繁殖するかと思われたが、巣卵や雛などたしか確認はできなかった。

### サギ科：

サギ科でほぼ通年生息するのはアオサギだけで、1羽

だけのことが多く2羽のこともあった。採食は池の上流側の浅瀬や堰堤の東側で池の魚類をねらい、休息は東側のアカマツを利用することが多い。大型で逃避距離が長く、人の姿を見て飛び去ることもしばしばであった。コサギは一回だけの観察である。ゴイサギは若鳥で2003年8月11日と30日に観察された。

### タカ科：

ハチクマ、トビ、オオタカ、ハイタカ、サシバ、ノスリの6種が観察された。春秋の渡りで観察されることがほとんどである。トビは、通年観察されるが出現頻度は少ない。ハイタカは日本庭園奥の雑木林の枝に止まっていたものが林間を飛んでいたり、冬季に雑木林で休んでいたものが飛び去っていった。

### ハヤブサ科：

2003年1月30日、チョウゲンボウが樹木展示林の稜線の上空に出現してカラスに追われ南下、カラスが引き返してしばらくして急転直下の捕食飛行する行動が観察された。

また、ほぼハヤブサと識別してよい個体は、2003年9月4日に南の針葉樹展示林のアカマツに止まっていたものが西方に飛去した。見通しのよい場所であり、獲物となる小鳥類の通過を待ち受けていたように推測された。

### タカの渡り：

秋のタカの渡りを少数ではあるが観察できた。2002年10月17日にはハチクマ1羽やサシバ4羽、9月26日にオオタカ1羽などを観察できた。植物園の稜線は低いがその気流を利用して旋回し高度をかせぎ、ピール・オフ (注1) していく。春季では2003年3月27日ノスリが1羽、旋回上昇の後東へピール・オフした。いずれも高度は低く肉眼で十分発見できた。渡りのピーク時にはもっと多くの羽数の観察が期待できそうである。

観察場所は展望塔の屋上がよいかと思われたが、ロックガーデンあたりで池の上空を見ていると発見が容易であった。2003年の秋季は調査日に渡りが見られなかった。(注1) ピール・オフ：旋回して上昇した後、果物の皮を剥くようにまっすぐに進路に突き進むこと

### タカと植物：

タカ類は見晴らしのよい場所で休息したり、獲物を待ち受けたりすることが多い。日本庭園奥や南側の針葉樹展示林の林縁などのように疎林状態の場所でタカを見る

ことがある。

**カモ科：**

10月から1月にかけてコガモとマガモが観察された。池の西側にせり出した茂みを隠れ場所としてよく利用していた。しかし、池周辺の落葉による植物の隠蔽効果の低下、水位の低下による池の面積減少、池周辺の除草作業など生息に適さなくなり1月16日のマガモを最後に姿が見られなくなった。ちなみに近くの八幡川では数種のカモ類が冬季に安定して生息している。

**シギ科：**

ヤマシギ1羽だけが観察された。2003年3月13日、日本庭園奥の暗いスギ林内を飛び去るのが観察された。薄暗い樹林もヤマシギや小鳥類を始め、蝶類や蛾類が好む場所であり動物相を豊かにしている。

**ハト科：**

キジバトの囀りは3月から11月まで聞かれた(表4)。キジバトは広島市内などで冬季でも少数繁殖するが、調査区域内では冬季のさえずりや営巣は認められなかった。しかし秋になっても囀りが観察され初冬季の繁殖の可能性がある。6月3日にはアメリカフウの地上高約5mの枝に営巣しているのが見られたが、1週間後には巣は放棄されていた。

時に数羽以上が群れて採餌していることがある。

2003年8月2日には外敵に襲われたキジバトの死体に残った肉をキイロスズメバチが採食しているのが観察された。

ドバトは近所で群れ飼っているものが時に近接する田畑で観察される。

**カッコウ科：**

ホトトギスの囀りが6月から8月にかけて聞かれたが、いずれも園外からの声であった。しかし2003年8月2日には休憩所(四阿)で翼を繕う姿を確認した。主な託卵相手となるウグイスの数が公園内には少なく園内に常時生息はしていない。

**キツツキ科：**

小型のキツツキであるコゲラが通年観察され、個体数も多いが、大型のアオゲラは冬季と5月に声だけの観察である。植物公園が都市の中の緑の孤島のような状態にあり大型のキツツキ類の生息に適した環境ではないとい

える。

**ツバメ科：**

ツバメ、コシアカツバメ、イワツバメが観察された。ツバメは3月から9月の観察であり、周辺で繁殖している個体が飛来するものと考えられる。観察地域内では繁殖の確認をしていない。コシアカツバメは2002年10月30日だけの観察であることから周辺地域での繁殖も少ないと考えられる。イワツバメは2002年10月24日に100羽前後の数を、また2003年10月2日に2羽以上を観察したが、秋の渡りと考えられる。

**セキレイ科：**

キセキレイ、セグロセキレイ、ビンズイの3種が観察された。この地域としては留鳥のキセキレイ、セグロセキレイは4月から11月に観察された。冬季には観察されなかった。ビンズイは2003年1月4日、同2月6日にそれぞれ単独でいるのを観察した。

**ヒヨドリ科：ヒヨドリ**

一年中、姿を見ることができる。北方のものは渡りをするといわれており、この植物園でも秋の渡りが観察された。植物園では数羽から100羽近い群が北西に移動する様子が観察される。展望台からの観察では見下ろすようになりヒヨドリの群れは森の緑色に溶け込んでしまう。むしろ大温室の東側あたりから池の上空を見あげると確認しやすい。秋の10月の上旬・中旬が渡りのピークで、ひっきりなしに渡るヒヨドリを見ることができる。今回の調査では100羽以上の大きな群を観察することはなかったが、1時間程度の観察でも300羽近いヒヨドリの通過を観察した。

冬季にも20羽以上が越冬のために生息している。春先の餌の少ない時期には数が増加し集団で実のなる木にかかる。

〈植物との関連〉2月にクロガネモチの実を100羽の集団で食べた。3本の木の実を1週間かからないで食べつくしたが、客がいなければもっと短い時間で食べつくしたと推測される。ウメやサクラの開花時期には花の蜜を吸っている様子が観察された。花の蜜の利用に適した細長いくちばしをしている。またホルトノキなどの実も採食していた。

表4. キジバトの囀り (2002年5月下旬から2003年11月中旬)

月	3		4		5		6		7		8		9		10		11	
囀り	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S

S：囀りを確認

#### モズ科：モズ

ほぼ通年見られるが、繁殖期や盛夏に一時観察されなくなることもある。声を出さずに行動するためと思われる。

#### イワヒバリ科：カヤクグリ

亜高山帯の針葉樹林帯で繁殖し冬季は下の山地に住むとされている。褐色の小型の鳥で、沢沿いの藪に多い。植物公園では2003年1月30日に、日本庭園奥の谷で地面に降りて採食行動しているのが観察された。チルルルと鳴く囀りも観察した。

#### ヒタキ科：

##### ツグミ亜科：

ルリビタキ、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミの4種が観察された。いずれも冬鳥であるが、出現時期はやや異なる。ジョウビタキは10月から3月の間に観察され、高い声で鳴いたり杭や木のでっぺんに止まることから発見も容易である。ルリビタキは12月から2月に見られるがやや暗いところに出現し見つけにくい、ときにはかなり近づくこともある。

シロハラやツグミはムクドリ大の大きさの野鳥で11月から4月いっぱいには観察された。特にツグミは芝生の上で採食することも多く観察されやすい。シロハラは「シー」「ピツロロロ・・・」という声や落ち葉をはねのける音で探し出すことが多い。

##### ウグイス亜科：

ヤブサメ、ウグイス、キクイタダキの3種が観察された。

ヤブサメは4月、6月、7月、10月に観察された。4月、10月の観察例では渡りのものと考えられるが、6月、7月の観察は同一場所での囀りの観察であり、繁殖の可能性はある。ウグイスは1月と8月を除いてほぼ周年観察された。姿の確認はほとんどなく囀りや地鳴きの観察であった。

冬鳥のキクイタダキは11月から4月上旬まで観察された。東の尾根筋であずまやから日本庭園にかけて針葉樹で採餌している姿が観察された。姿、声共に小さく発見は難しい。

##### ヒタキ亜科：

キビタキ、コサメビタキ、エゾビタキが観察された。キビタキは2003年5月、6月に連続してさえずりが日本庭園裏の谷にて観察され繁殖の可能性が高い。コサメビタキとエゾビタキは秋の渡りの時期に観察された。両種とも見晴らしのよい木のでっぺんに止まることが多いので発見しやすい。

##### エナガ科：エナガ

エナガが通年、見られるが、盛夏では観察は希となる。

個体数も多く、冬季にはカラ類やコゲラと混群を形成する。

#### シジュウカラ科：

ヤマガラとシジュウカラの2種が観察された。囀り以外に繁殖行動を観察していないが、普通に生息していることから繁殖の可能性も高い。公園で用意した巣箱を利用したと聞いた。

#### メジロ科：メジロ

通年観察され、ほとんどの調査で記録された。秋から冬には群をなし20羽以上になることも少なくない。また冬季にカラ類やコゲラなどと混群を形成していることも普通である。ウメの花の蜜を求めてウメ林によく訪れるのが公園内全域で観察される。2002年1月22日に2羽のメジロがビワの花の蜜を吸っているのを観察した。

#### ホオジロ科：

広島県では留鳥とされるホオジロは、繁殖期には駐車場付近でさえずりが聞かれる。初冬にはモミジバフウ並木周辺の斜面で見られるが、厳冬期には姿を見せなくなる。2003年10月11日に梅林で確認した2羽は若鳥であった。個体数は少ない。

ミヤマホオジロは西日本で普通に越冬するホオジロの仲間である。ウメ林、サクラ林あたりと樹木展示林内の地上部で採食する様子がよく観察された。十数羽の群が居ついていた。アオジもミヤマホオジロと同様な場所に観察されることが多いが、ミヤマホオジロに比べて群れることは少ない。

カシラダカは隣接の田で観察されたもので園内では確認していない。この種には開けた田畑のような環境が必要である。

#### アトリ科：

カワラヒワは年中観察され、家族群や巣立ち雛への給餌の観察をしていることから園内またはその周辺で繁殖しているものと推測される。8月にはすでに群れを形成しており、2003年8月21日には森のレストラン前の耕起した花畑で、カワラヒワ8羽とスズメ6羽が共に餌をついばむ様子が観察された。

アトリは初冬の10月下旬から11月上旬、4月初旬に観察された。

マヒワは1月上旬から2月初旬に群れをなしてアメリカフウの実をついばむ様子がよく観察された。

ウソは群れて1月、2月にサクラやウメのつぼみをついばむ様子が観察された。場所では芝生広場周辺のサクラや管理事務所横のウメ林で観察される。

イカルは3月と5月を除いて周年観察された。2003年8月21日にはカシワの樹上に少なくとも3羽の家族群を認めたが、親が若鳥に給餌するのを観察した。

**ハタオリドリ科：**

スズメは周辺の住宅地では周年観察されるが、園内で冬季に観察されることはない。1月から3月の観察例は東側に隣接する住宅地からの鳴き声の観察例である。繁殖期には園内の樹林帯を除いて多くのスズメがほぼ全域に分布する。冬季になぜ植物公園内に進入、定着しないのか不思議である。

**ムクドリ科：**

ムクドリは2003年には4月から8月まで観察された。数十羽の群をなすこともある。若鳥の採餌、休息に植物園が使われることが多く、夏以降の時々に入る前の集結場としては使われないようである。

**カラス科：**

カラスはハシブトガラスとハシボソガラスの2種類が観察された。ハシボソガラスは2003年3月27日に大温室前のヤシの木に造巣する行動が観察された。サクラの枝を折って何度も運ぶ行動が見られたが、枝を折る際に嘴

で枝を噛んだままぶら下がり自重で枝を折る行動が見られた。4月10日には巣はほぼ完成していたが抱卵する姿は見えなかった。この巣は強風により落下した。

ハシボソガラスの部分白化個体を2002年8月23日に観察した。この個体は胸部にまばらに白斑が見られ、左翼角付近にも白斑が見られた。

ハシブトガラスは通年観察されるが、日本庭園の西側の尾根に2002年11月ごろから冬季に家族と思われる3羽が定着していた。

**参考文献**

上霜英夫・日比野政彦 1994. 廿日市市の鳥類. 廿日市市の生物：153-169. 廿日市市教育委員会  
栗原筑波・佐伯昌彦・佐伯暢彦 1988. 府中町の鳥類. 府中町の動植物：119-128. 府中町教育委員会  
日比野政彦・大藤由美子 1979. 広島湾八幡川河口の鳥類. 87pp.



写真1. アオサギの捕食行動



写真2. コガモの隠れ場



写真3. エナガの巣材集め



写真4. カヤクグリ



写真5. ハチクマ



写真6. シロハラ

# 広島市植物公園の鳥類目録

(分類、学名は日本鳥類目録改訂第6版によった)

## PODICIPEDIFORMES カイツブリ目

### Podicipedidae カイツブリ科

*Tachybaptus ruficollis* (Pallas) カイツブリ

## CICONIIFORMES コウノトリ目

### Ardeidae サギ科

*Ncticorax nycticorax* (Linnaeus) ゴイサギ

*Egretta garzetta* (Linnaeus) コサギ

*Ardea cinerea* Linnaeus アオサギ

## ANSERIFORMES カモ目

### Anatidae カモ科

*Anas platyrhynchos* Linnaeus マガモ

*Anas crecca* Linnaeus コガモ

## FALCONIFORMES タカ目

### Accipitridae タカ科

*Pernis apivorus* (Linnaeus) ハチクマ

*Milvus migrans* (Boddaert) トビ

*Accipiter gentilis* (Linnaeus) オオタカ

*Accipiter nisus* (Linnaeus) ハイタカ

*Buteo buteo* (Linnaeus) ノスリ

*Butastur indicus* (Gmelin) サシバ

### Falconidae ハヤブサ科

*Falco tinnunculus* Linnaeus チョウゲンボウ

## CHARADRIIFORMES チドリ目

### Scolopacidae シギ科

*Scolopax rusticola* Linnaeus ヤマシギ

## COLUMBIFORMES ハト目

### Columbidae ハト科

*Streptopelia orientalis* (Latham) キジバト

*Columba livia* Gmelin カワラバト(ドバト)

## CUCULIFORMES カッコウ目

### Cuculidae カッコウ科

*Cuculus poliocephalus* Blyth ホトトギス

## PICIFORMES キツツキ目

### Picidae キツツキ科

*Picus awokera* Temminck アオゲラ

*Dendrocopos kizuki* (Temminck) コゲラ

## PASSERIFORMES スズメ目

### Hirudinidae ツバメ科

*Hirundo rustica* Linnaeus ツバメ

*Hirundo daurica* Linnaeus コシアカツバメ

*Delichon urbica* (Linnaeus) イワツバメ

**Motacillidae** セキレイ科

*Motacilla cinerea* Tunstall キセキレイ

*Motacilla grandis* Sharpe セグロセキレイ

*Anthus hodgsoni* Richmond ビンズイ

**Pycnonotidae** ヒヨドリ科

*Hypsipetes amaurotis* (Temminck) ヒヨドリ

**Laniidae** モズ科

*Lanius bucephalus* Temminck & Schlegel モズ

**Prunellidae** イワヒバリ科

*Prunella rubida* (Temminck & Schlegel) カヤクグリ

**Muscicapidae** ヒタキ科

**Turdinae** ツグミ亜科

*Tarsiger cyanurus* (Pallas) ルリビタキ

*Phoenicurus aureus* (Pallas) ジョウビタキ

*Turdus pallidus* Gmelin シロハラ

*Turdus naumanni* Temminck ツグミ

**Sylviinae** ウグイス亜科

*Urosphena squameiceps* (Swinhoe) ヤブサメ

*Cettia diphone* (Kittlitz) ウグイス

*Regulus regulus* (Linnaeus) キクイタダキ

**Muscicapinae** ヒタキ亜科

*Ficedula narcissina* (Temminck) キビタキ

*Muscicapa griseisticta* Pallas エゾビタキ

*Muscicapa dauurica* Pallas コサメビタキ

**Aegithalidae** エナガ科

*Aegithalos caudatus* (Linnaeus) エナガ

**Paridae** シジュウカラ科

*Parus varius* Temminck & Schlegel ヤマガラ

*Parus major* Linnaeus シジュウカラ

**Zosteropidae** メジロ科

*Zosterops japonicus* Temminck & Schlegel メジロ

**Emberizidae** ホオジロ科

*Emberiza cioides* Brandt ホオジロ

*Emberiza rustica* Pallas カシラダカ

*Emberiza elegans* Temminck ミヤマホオジロ

*Emberiza spodocephala* Pallas アオジ

**Fringillidae** アトリ科

*Fringilla montifringilla* Linnaeus アトリ

*Carduelis sinica* (Linnaeus) カワラヒワ

*Carduelis spinus* (Linnaeus) マヒワ

*Pyrrhula pyrrhula* (Linnaeus) ウソ

*Eophana personata* (Temminck & Schlegel) イカル

**Ploceidae** ハタオリドリ科

*Passer montanus* (Linnaeus) スズメ

**Sturnidae** ムクドリ科

*Sturnus cineraceus* Temminck ムクドリ

**Corvidae** カラス科

*Corvus corone* Linnaeus ハシボソガラス

*Corvus macrorhynchos* Wagler ハシブトガラス